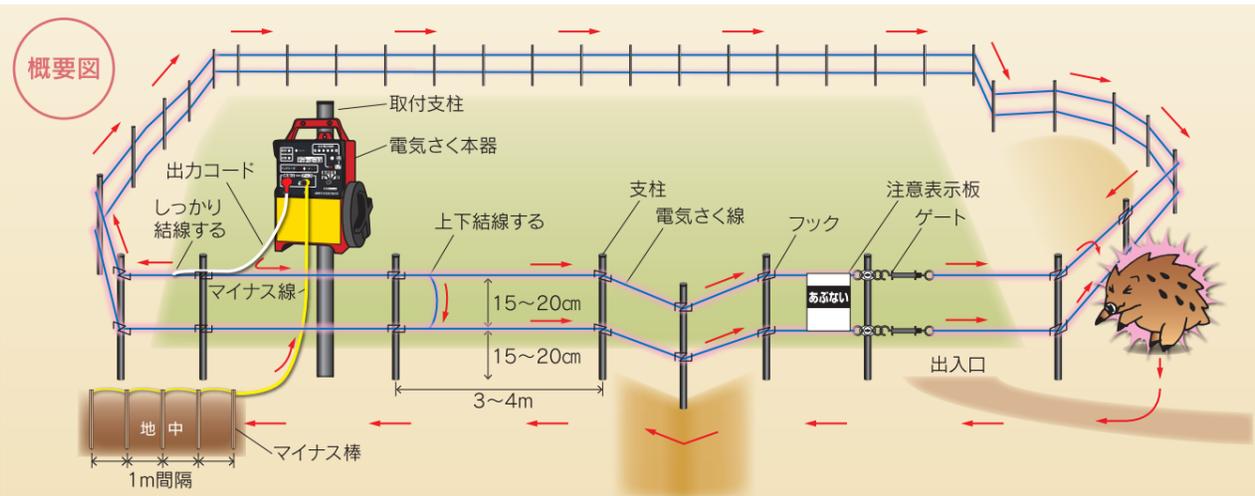


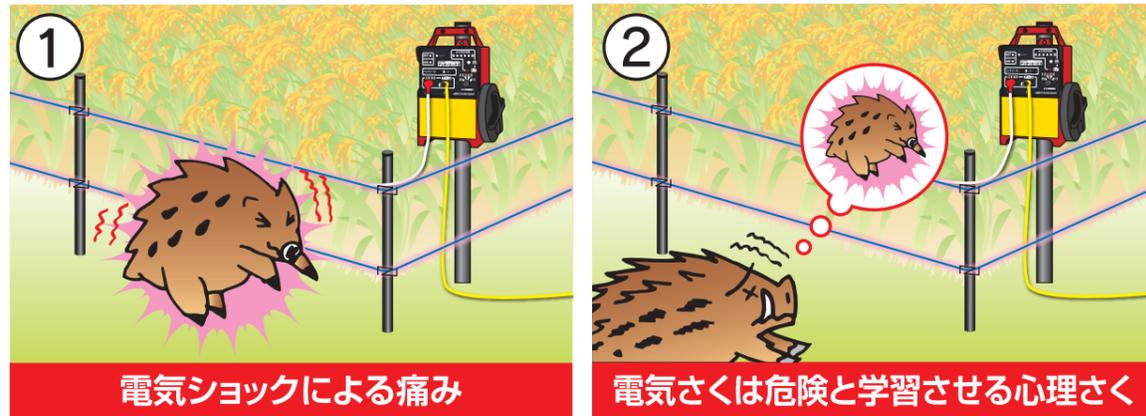
電気さく基礎知識

電気さくとは？



●田畑の周囲に張った電気さく線に約1秒間隔で衝撃電流を流し、動物が触れると衝撃電流は矢印のように、動物から地中を伝わってマイナス棒から本器に戻ります。この時、動物に強いショックを与えます。

動物に電気ショックを与え追い払うことで、**2つの効果**により動物の侵入を防ぎ長期的に農作物を守ります。

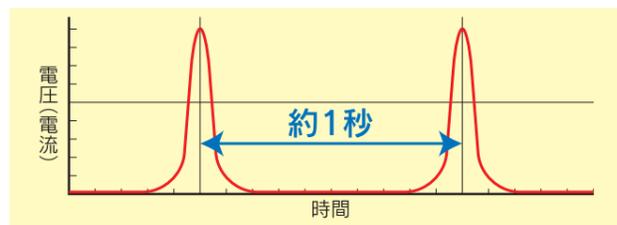


電気さくの安全性について

電気さくは安全な防獣システムです。

衝撃電流はパルス出力なので安全です。

約1秒間隔で瞬間的に電気を流すパルス出力なので、人が触れても静電気のようなショックを受けますが、間隔があいているので手を離す事ができ、安全です。



電気事業法による設備基準に対応しています。

当社製品は電気用品安全法で定める「PSEマーク」を取得しています。

PSEマークは、日本国内のAC100V電源を使用する民生用電気製品による火災や感電などから消費者を守るために施行された法律(電気用品安全法)の基準を満たした電気製品であることを示しています。



周囲に電気さくを使用中であることを知らせる「注意表示板」を付属しています。

人が見やすい位置・間隔で危険を知らせる表示をすることが義務付けられています。



当社のACタイプの「電気さく用電源装置」には「コンセント式漏電遮断器」を標準で付属しています。

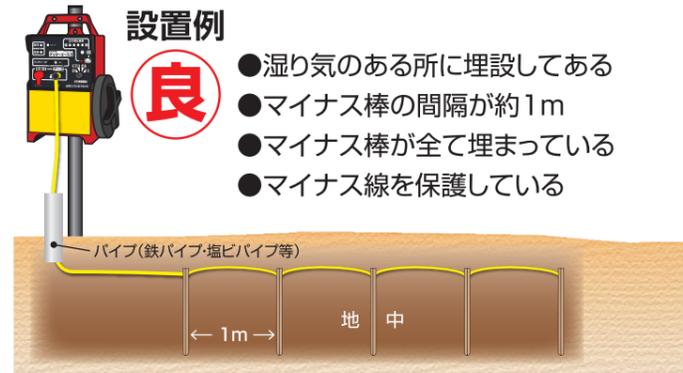


人が通る公道などに接していたり、「さく」や「塀」等で分離されていない場所(人が容易に立ち入れる場所)に家庭用AC100V電源式の「電気さく用電源装置」を使用して電気さくを設置する場合には、「漏電遮断器」を設置することが義務付けられています。
※AC100Vを使用する場合は、規則を遵守してください。

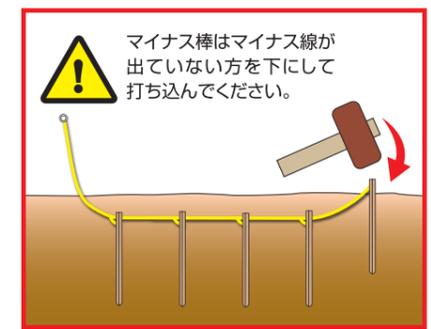
電気さく設置の際に注意すること

効果の決め手はマイナスです。必ず正しく取付けてください。

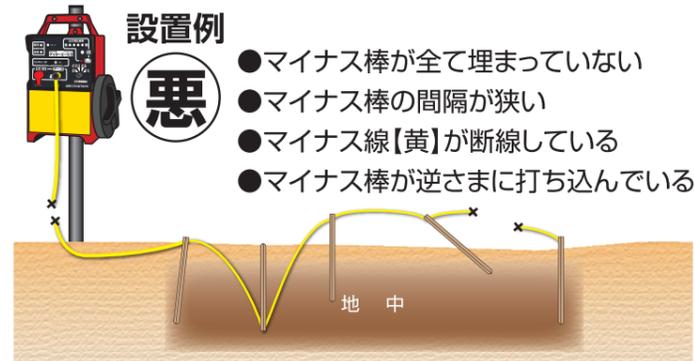
正しく取付けていないと電気ショックが弱くなります。



- 設置例 **良**
- 湿り気のある所に埋設してある
 - マイナス棒の間隔が約1m
 - マイナス棒が全て埋まっている
 - マイナス線を保護している



不良例



- 設置例 **悪**
- マイナス棒が全て埋まっていない
 - マイナス棒の間隔が狭い
 - マイナス線【黄】が断線している
 - マイナス棒が逆さまに打ち込んでいる

※マイナス棒の不良により本器が故障することはありません。

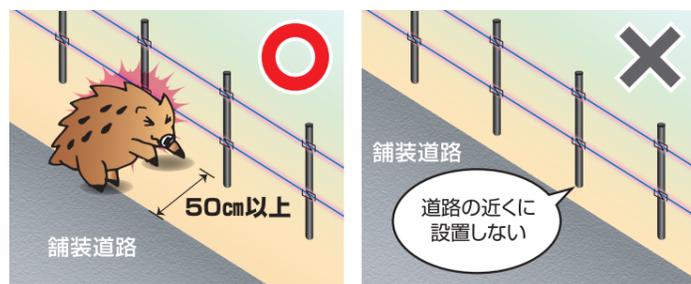
逆さまに半分しか打ち込んでいない。逆さまに打ち込むと「断線」の原因となります。

※価格および商品の仕様・外観は改良のため予告なく変更する場合がありますのでご了承ください。
※価格には運賃や設置費は含まれておりません。別途申し受けます。※税込価格の税率は10%です。

地形に合った設置をすることで、電気さくの効果が高まります。

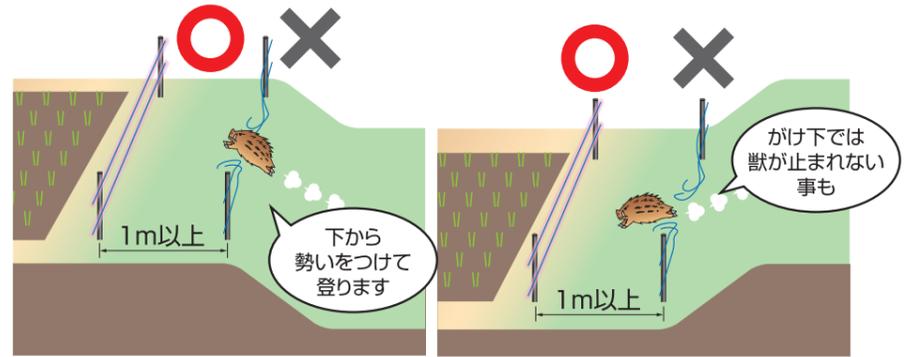
舗装道路

舗装道路から50cm以上の間隔をあけて設置
 コンクリート舗装やアスファルト、石垣などではマイナスが取れにくいので離して設置します。
 間隔をあける事で獣の前足が地面に触れて、効果的な電気ショックを与えることができます。



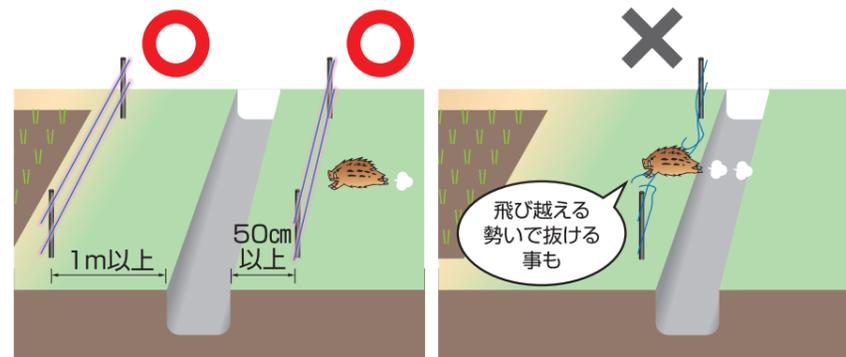
斜面

斜面から1m以上離れた平地部分に設置
 斜面では勢いにつきやすいので、出来るだけ斜面の近くを避け、平らな場所に設置してください。



U字溝

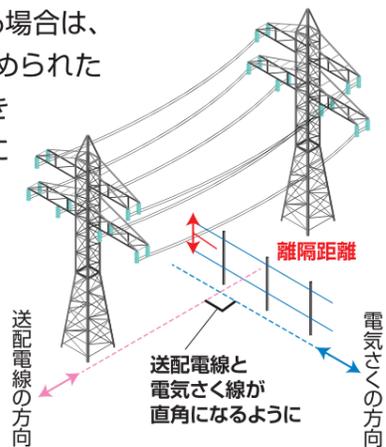
溝から圃場側に1m以上離れた所か侵入側の手前に設置
 飛び越える勢いで抜ける事も



架空送電線や電話線のあるところの設置には注意が必要です。

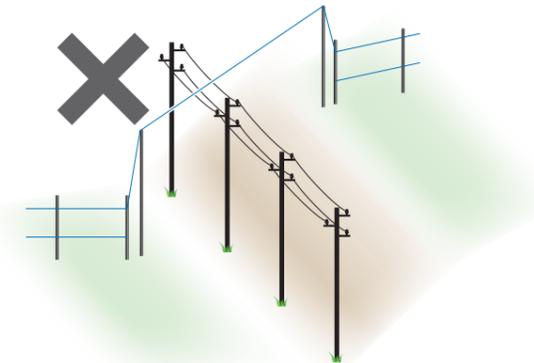
送電線の電圧により定められた離隔距離を保つ必要があります。

送電線の近くに設置する場合は、送電線の電圧により定められた離隔距離をとって、できる限り直角になるように交差させてください。



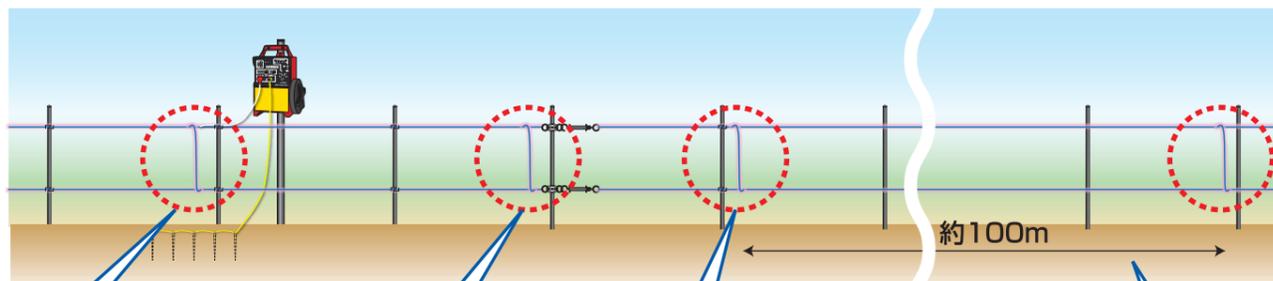
送電線の電圧	離隔距離
1,000V以下	3m
1,000V以上 33,000V以下	4m
33,000V以上	8m

電線や電話線の上を通さないようにしてください。棚田など斜面に設置する時は電柱の位置に注意してください



上下結線は3箇所以上行ってください。

上下結線をしないと衝撃電流が正常に流れません。



- ポイント1 本器の近くには必ず1箇所結線が必要です。
- ポイント2 出入口は左右2箇所に結線しましょう。
- ポイント3 広い圃場では100m毎に上下結線しましょう。上下結線が少ないと衝撃電流が正常に流れない事があります。狭い圃場でも、3箇所以上は上下結線を行ってください。

状況に応じた上下結線の方法

さくを撤収しない場合

電気さく線を結線出来る長さに切って外れないようにしっかり結ぶ

余り部分を本線に巻き付け線が垂れないようにする

結び

余り部分

本線

しっかり巻き付ける

巻きつけた部分は通電テープを巻いて補強する

さくを撤収する場合

電気さく線を結線出来る長さに切ってしっかり巻き付ける

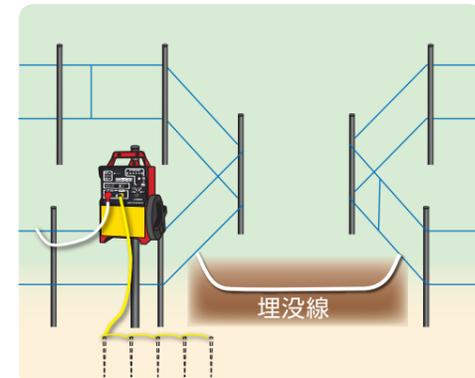
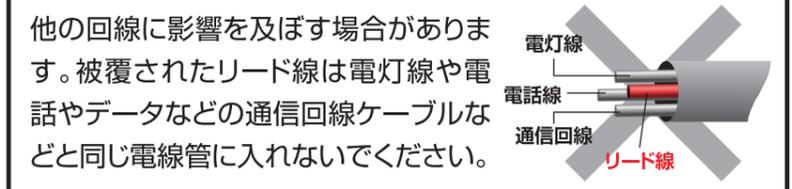
線を結んでいないので線の回収が楽になります。

巻き付ける

巻きつけた部分は通電テープを巻いて補強する

2つの電気さくを電線でつなぐ際は埋没線を使用してしっかり埋める。

地面に露出すると破損しやすくなります。埋設の際は、専用の埋没線を使用するか被覆されたリード線を電線管に通してしっかり埋設してください。露出しているとタイヤに踏まれたり動物にかじられたりして断線することがあります。



※埋設する場合は、ビニールパイプなどで保護して使用してください。

※価格および商品の仕様・外観は改良のため予告なく変更する場合がありますのでご了承ください。
 ※価格には運賃や設置費は含まれておりません。別途申し受けます。※税込価格の税率は10%です。

電気さく資材の基本的な選び方
 対象動物別対策
 電気さく本体 (屋外設置用)
 電気さく本体 (屋内設置用)
 支柱
 フック・ガイシ
 電気さく線
 及び関連資材
 検電器
 ゲート (出入口資材)
 マイナスシート
 電源関連資材
 その他資材
 及び追加資材
 電気さく基礎知識
 設置後の管理
 索引